

## 国立民族学博物館研究報告 vol.020-1; 表紙ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	20
発行年	1995-08-10
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/3101">http://hdl.handle.net/10502/3101</a>

1995—2011  
卷1号

# 国立民族学博物館 研究報告



Decipherment and Studies of Early Palauan Word-Lists Collected since  
the Eighteenth Century——Osamu Sakiyama

羌村社会结构分析——徐平

Sino-Tibetan Numerals and the Play of Prefixes——James A. Matisoff



国立民族学博物館

〒565 大阪府牧田市長千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

# 国立民族学博物館研究報告

---

20 卷 1 号

1995 年

---

## 目 次

Decipherment and Studies of Early Palauan Word-Lists Collected since the Eighteenth Century .....	Osamu Sakiyama.....	1
羌村社会结构分析 .....	徐 平.....	49
Sino-Tibetan Numerals and the Play of Prefixes .....	James A. Matisoff.....	105
彙 報 .....		253
国立民族学博物館研究報告寄稿要項 .....		257
国立民族学博物館研究報告執筆要領 .....		258

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

---

Vol. 20 No. 1

1995

---

SAKIYAMA, Osamu	Decipherment and Studies of Early Palauan Word-Lists Collected since the Eighteenth Century .....	1
XU, Ping	An Analysis of the Social Structure of the Qiang Village .....	49
MATISOFF, James A.	Sino-Tibetan Numerals and the Play of Prefixes ...	105

彙 報

(平成7年1月～  
平成7年3月)

人事異動

(教育職)

(採 用)

3月5日 地域研究企画交流センター教授  
山田 睦男

(任期満了)

3月31日 第一研究部教授 周 達生  
(4月1日付けで関西学院大学  
教授に就任)

(辞 職)

3月31日 第一研究部教授 松澤 員子  
(4月1日付けで神戸女学院大  
学教授に就任)

(外国人客員研究部門)

[任期満了]

2月28日 第五研究部助教授  
VICTORIA, Brian Andre  
(アメリカ合衆国, オークラン  
ド大学講師)  
〈任期6.11.4～7.2.28〉

3月31日 第五研究部教授 COBBI, Jane  
(フランス, フランス国立科学  
研究所主任研究員)  
〈任期6.5.30～7.3.31〉

3月31日 第五研究部助教授  
ICHINKHORLOOGIN, Lkhagvasuren  
(モンゴル, モンゴル国立民族  
歴史博物館長)  
〈任期6.9.8～7.3.31〉

シンポジウム

◎日米地域研究会議

期間 平成7年3月6日(月)  
～3月7日(火)

場所 国際文化会館

摘要 今回のシンポジウムにおいては、日

米の地域研究会の28名の代表者を  
中心に参加者が地域研究の課題、現  
状、方法論、問題点などについての  
活発な討論がおこなわれました。

シンポジウム専門部会委員

(委員長)

板垣 雄三 東京経済大学

(委 員)

五十嵐武士 東京大学

石井 明 東京大学

石井 溥 東京外国語大学

石毛 直道 国立民族学博物館第一研究  
部

佐藤 次高 東京大学

佐藤 宏子 東京大学

田南 立也 国際文化会館

藤本和貴夫 大阪大学

細野 昭雄 筑波大学

本間 長世 成城学園長

山田 睦男 国立民族学博物館地域研究  
企画交流センター

吉田 昌夫 中部大学

シンポジウム実行委員会

(委員長)

松原 正毅 国立民族学博物館地域研究  
企画交流センター長

(委 員)

板垣 雄三 東京経済大学

石毛 直道 国立民族学博物館第一研究  
部

山田 睦男 国立民族学博物館地域研究  
企画交流センター

秋道 智彌 国立民族学博物館第一研究  
部

吉田 憲司 国立民族学博物館第四研究  
部

林 勲男 国立民族学博物館第四研究  
部

東府 義之 国立民族学博物館管理部長

田南 立也 国際文化会館企画部長

参加者

(日本側)

吉田 昌夫	日本アフリカ学会	13:30	開会式 あいさつ	
小倉 充夫	日本アフリカ学会			(USA 側) John Campbell
藤田 文子	日本アメリカ学会			(日本側) 松原 正毅
佐藤 宏子	日本アメリカ学会	14:00	基調講演 (座長:本間 長世)	
安場 保吉	アジア政経学会		メインスピーカー	板垣 雄三
田中 恭子	アジア政経学会			David Wyatt
山田 睦男	日本ラテンアメリカ学会		パネラー	小倉 充夫
西島 彰次	日本ラテンアメリカ学会			Michael Cowan
板垣 雄三	日本中東学会	3月7日 (火)		
佐藤 次高	日本中東学会			(座長:佐藤 次高)
川端香男里	ロシア東欧学会			John Stephens)
村井 透	日本南アジア学会	10:00	〈地域研究の知的関心分野〉について	松井 透
石井 溥	日本南アジア学会			安場 保吉
藤本和貴夫	日本スラブ東欧学会			Edward L. Keenan
松原 正毅	国立民族学博物館地域研究 企画交流センター			Reid Reading
本間 長世	国際交流基金日米センター			(座長:石井 溥)
(USA 側)				Edna Bay)
Goran Hyden	アフリカ学会	13:30	〈地域研究の方法と活性化〉について	藤田 文子
Edna Bay	アフリカ学会			吉田 昌夫
Edward L. Keenan	スラブ研究学会			Goran Hyden
Dorothy Atkinson	スラブ研究学会			Ann Lesch
Michael Cowan	アメリカ学会			(座長:佐藤 宏子)
John Stephens	アメリカ学会			Dorothy Atkinson/
David Wyatt	アジア研究学会	16:00	〈日米の地域研究学会相互間の協力だけでなく、対象地域の研究者を含めてのマルチラテラルな協力の推進〉について	藤本和貴夫
John Campbell	アジア研究学会			山田 睦男
Marysa Navarro	ラテンアメリカ学会			Marysa Navarro
Reid Reading	ラテンアメリカ学会			Ann Betteridge
Ann Lesch	中東学会			
Ann Betteridge	中東学会			
日 程				
3月6日 (月)				
	(進行) 山田 睦男			

海外における研究・調査・収集活動

氏 名	官 職	出 発	帰 国	行 先
長野 泰彦	助教授 (第五研究部)	7. 1. 5	7. 1.15	アメリカ合衆国
崎山 理	教 授 (第五研究部)	7. 1.15	7. 1.19	シンガポール
秋道 智彌	助教授 (第一研究部)	7. 1.21	7. 2. 3	シンガポール, インドネシア
吉田 集而	教 授 (第一研究部)	7. 1.27	7. 2.25	メキシコ, ニカラグア
横山 廣子	助教授 (第二研究部)	7. 2. 1	7. 2.15	中華人民共和国
朝倉 敏夫	助教授 (第一研究部)	7. 2. 8	7. 3.10	大韓民国

彙 報

久保 正敏	助教授 (第五研究部)	7. 2.13	7. 3. 4	オーストラリア
松山 利夫	助教授 (第一研究部)	7. 2.21	7. 3.18	オーストラリア
清水 昭俊	教 授 (第四研究部)	7. 2.22	7. 3.29	ニュージーランド, トンガ, 西サモア, フィジー, キリバス, マーシャル諸島, ミクロネシア連邦
石森 秀三	助教授 (第四研究部)	7. 2.27	7. 3. 3	オーストラリア
上杉 富之	助 手 (第二研究部)	7. 3. 1	7. 3.30	マレーシア
吉本 忍	助教授 (第五研究部)	7. 3. 1	7. 3.31	タイ, 中華人民共和国
熊倉 功夫	教 授 (第一研究部)	7. 3. 4	7. 3.19	ブルガリア, ルーマニア, ポーランド, フランス
黒田 悦子	教 授 (第四研究部)	7. 3. 5	7. 3.12	グアテマラ
八杉 佳穂	助教授 (第四研究部)	7. 3. 5	7. 3.17	グアテマラ, メキシコ
大塚 和義	教 授 (第五研究部)	7. 3. 5	7. 3.26	フランス, ベルギー, スペイン, イギリス
石森 秀三	助教授 (第四研究部)	7. 3. 9	7. 3.22	オランダ, アメリカ合衆国, ジャマイカ
長野 泰彦	助教授 (第五研究部)	7. 3.10	7. 3.24	ネパール, インド
立川 武藏	教 授 (第二研究部)	7. 3.10	7. 3.31	ネパール, インド
松原 正毅	教 授 (地域研究企画交流センター)	7. 3.15	7. 3.23	中華人民共和国
野村 雅一	教 授 (第三研究部)	7. 3.16	7. 5.14	イタリア
藤井 知昭	教 授 (第二研究部)	7. 3.22	7. 3.28	中華人民共和国
新免光比呂	助 手 (第三研究部)	7. 3.28	8. 1.23	ルーマニア

来館者抄

1月6日	杉藤美代子 (音声言語研究所長)	1月13日	和歌山県御坊市教育委員会一行
1月11日	小坂 光男 (長崎大学熱帯医学研究所長)	2月21日	遠山 敦子 (文化庁長官)
1月12日	全国科学博物館協議会一行 石倉 亮治 (千葉県立中央博物館研究員), 斎藤 靖二 (国立科学博物館地学研究部地学第一研究室長), 西井 正和 (兵庫県立人と自然の博物館情報管理室長), 洞口 俊博 (国立科学博物館理工学研究部研究官), 松浦 啓一 (国立科学博物館動物研究部主任研究官), 塚越 義行 (国立科学博物館普及部普及課長)	3月2日	和田 充広 (総務庁行政管理局副管理官), 小笠原英雄 (総務庁行政管理局企画調整課), 常磐 豊 (文部省高等教育局大学課課長補佐), 北尾 善信 (文部省学術国際局研究機関課専門員), 森田 正信 (文部省大臣官房総務課法令審議室審議第一係長)

- 3月7日 小川 善文（大蔵省近畿財務局  
理財部主計第二課上席主計実地  
監査官），中村 正男（大蔵省  
近畿財務局理財部主計第二課主  
計実地監査官）
- 3月10日 エドナ・ベイ（全米アフリカ学  
会事務局長）夫妻
- 3月24日 SOEDARSONO, R. M（インドネ  
シア, インドネシア芸術大学長）
- 3月28日 OHTAKE, Richardo Itsuo（ブラ  
ジル, ブラジルシネマテーク財  
団理事長）
- 3月31日 関 秀志（北海道開拓記念館  
学芸部長）



## 国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
  - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
  - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
  - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

## 国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。  
[柳田 1942: 67-69]  
[Leach 1961: 123]  
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]  
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。  
[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

- (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
- (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本語の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 20卷1号

〔監 修〕

佐々木 高 明

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

秋 道 智 彌

泉 幽 香

上 杉 富 之

清 水 昭 俊

庄 司 博 史

新 免 光 比 呂

田 邊 繁 治 彦

長 野 泰 彦

野 村 雅 一

松 山 利 夫

安 村 直 己

横 山 廣 子

---

平成 7 年 8 月 10 日 発 行 非 売 品

国立民族学博物館研究報告 20卷1号

編集・発行 国立民族学博物館  
〒565 吹田市千里万博公園 10-1  
TEL 06 (876) 2151(代表)

印 刷 中西印刷株式会社  
〒602 京都市上京区下立売通小川東入  
TEL 075 (441) 3155(代表)

---

Bulletin of the National Museum of Ethnology  
vol.20 no.1  
1995

- SAKIYAMA, Osamu**      **Decipherment and Studies of Early Palauan Word-Lists Collected since the Eighteenth Century**
- XU, Ping**                **An Analysis of the Social Structure of the Qiang Village**
- MATISOFF, James A.**   **Sino-Tibetan Numerals and the Play of Prefixes**



**National Museum  
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan  
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X